

# 今永、2安打完投で

## リーグ戦白星発進

# 駒大 2-1 専大

### 1回戦

13年秋季リーグ

第1週・4月8日

1勝0敗

駒大	000	110	000	2
専大	000	100	000	1



(左)開幕投手を務め、2安打完投の今永



(右)6回、逆転の右中間適時二塁打を放った福山

【駒大】	打安点
(4)9 砂川	3 1 0
(9)伊藤	3 0 0
4 福山慎	1 0 0
(6)下川	4 1 0
(8)江越	4 0 0
(5)福山亮	4 1 1
(2)木下	4 1 0
(3)柳原	4 1 0
3 西村凌	0 0 0
DH 篠原	3 0 0
(7)齋藤	2 1 1
計	32 6 2

▽二塁打=木下、砂川、下川、福山亮

○今永	回	打安責
	9	32 2 0

「緊張してなかなか動かなかった。申し訳ない」と、右飛を伊藤修太(経1)が落球してしまい無安打で同点にされてしまう。この流れを断ち切ったのは先発・今永。7回からは毎回走者を出すが「一冬越えて長いイニングを投げるために色々気付きながらやってくれ

今季開幕戦。試合は5回、先制点を挙げた直後死球と失策が絡み無安打で同点に追い付かれる。すると6回、福山亮(経3)が右中間適時二塁打を放ち勝ち越し。このリードを先発・今永昇太(経2)が守り抜きリーグ戦初戦を白星で飾った。

1点を先制して迎えた5回裏2死二塁、この場面で「緊張してなかなか動かなかった。申し訳ない」と、右飛を伊藤修太(経1)が落球してしまい無安打で同点にされてしまう。この流れを断ち切ったのは先発・今永。7回からは毎回走者を出すが「一冬越えて長いイニングを投げるために色々気付きながらやってくれ

文〓山本春熙  
写真〓瀧埜ひとみ  
松井智子

**松本主将が選ぶ!**

た」と西村亮監督が話すように、粘りの投球で9回138球を投げ切った。今永は大事な開幕戦で「秋は勝てなかったので勝てて良かった」と初の白星に安どの表情を見せた。

試合は同点で迎えた6回、5番・福山亮が1死二塁から右中間適時二塁打を放ち逆転に成功。6回の守備からは弟・福山慎吾(菅1)も出場した。初出場の弟は「小、中、高と同じスコアボードに名前が出るのが無かったのでうれしかった」と同時出場を喜ぶ。一方、兄は「1ついいプレーもあった。弟に負けないようにしたいし気合も入る」と気を引き締めた。思い切りのいい打撃でオープン戦では1番を打つこともあった弟、昨秋にはベストナインに選ばれこの春には東都選抜にも召集されている兄。兄弟での活躍にも期待がかかる。

**今日のベストプレイヤー!** 木下と江越。木下は最初すごく緊張してたけど試合後の表情を見てホッとした。**ベストプレー!** 8回の江越のスーパーキャッチ。あれは実際大きかったと思います。」

## ROOKIES・伊藤修太(34)

今年駒大野球部の門を叩いた新入生の中で、誰よりも早く神宮球場の打席に立ったのが伊藤修太(経1)だ。163cm、55kgと小柄ながら器用に打ち分け可能な打撃センスで安打を量産、オープン戦でも存在感を見せつけた。少ないチャンスをものにし、期待を背に開幕戦でスタメン出場を果たした。しかし、神宮デビューはほろ苦いものになってしまう。唯一の失点を自身の失策で許してしまったのだ。試合後、「試合が始まって緊張してなかなか動かなかった」と口数少なく振り返り、悔しさをにじませる。打撃も振るわず、神宮初安打もお預けとなった。

日大藤沢高時代は1番遊撃手、主将としてチームを神奈川県大会ベスト4へと導いた。予選1回戦ではサヨナラインフィールドフライを放ち話題にも。いわば“持っている”男の今後の成長に期待が高まる。(五十嵐秋音)

